令和6年度 第1回五條市総合教育会議 議事録

■日時：令和7年2月27日（木） 10時から12時

■場所：五條市役所 2階 災害対策室

■出席者

平岡 清司 市長

井上 恵充 教育長

井本 誓晃 教育委員

寒川 英明 教育委員

大西 修二 教育委員

井田 栄子 教育委員

■事務局等

市長 公室 長 西本 久雄

あんしん福祉部長 谷口 久美

教育部 長 名迫 雅浩

市長 公室 次長 栗林 利光

あんしん福祉部次長 辻 佳孝

教育部 次長 安満 義尚

教育総務課長 辰巳 斉彦

学校教育課長 西出 晃彰

子ども未来課長 安野 寿仁

文 化 財 課 長 前坂 尚志

子どもサポートセンター所長 古澤 祐子

教育総務課長補佐 辻本 洋一

企 画 政 策 課 長 神山 博美

企画政策課長補佐 平 和宏

1 開会（議事進行 西本市長公室長）

2 平岡市長挨拶 要旨

井上教育長、教育委員の皆様には、本市教育の充実・発展、さらには、子どもたちの健全育成などの振興にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

本市の教育に対して様々な問題や課題解決に向けて取り組み、ご苦勞をお掛けしているが、未来を担う子どもたちのために、委員の皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

ライフスタイルが多様化し、成長し続ける現代社会では、教育問題などから発生する様々な事案が全国的に増加している。このため「人づくり」、「人材育成」は特に大切であると考え、子育て、教育環境の充実が大変重要である。

本市では「公立小中学校の給食費の無償化」「第2子以降の保育料無償化」などを令和6年度から実施しており、「五條市で子どもを育てて良かった」と思ってもらえるまちづくりを目指し、子育て世代を応援し、安心して子育てできる環境を提供していく。

本日は、5つの事項で協議し、委員の皆様にはご意見を賜りたい。

今後とも、教育委員会と市が連携・協力し、より良い教育の方向性を見出すことが

できるよう取り組んでまいりたいので、一層のご理解とご協力をお願いします。

■議事録の署名

- ・平岡市長及び寒川委員が署名を行うことで承諾。
- ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定により、会議及び会議録は公開とすることで承諾。

3 協議事項

(名迫部長)

- ・協議事項全体の説明

今回の5つの協議事項は、第4期五條市教育振興基本計画（令和5年～9年）に掲げている主な事業である。この計画は、令和2年度に策定した上位計画である五條市教育大綱の4つの基本方針に基づき、具現化した各事業の計画を記載している。令和7年度は計画の中間期間で、事業の進捗状況を確認し、見直す時期である。

その中から主な事業の進捗状況として各事業の概要、主な取組内容、今後の課題を各担当から説明するので、ご意見をいただきたい。

なお、各事業の今後の課題は、事前に教育委員からご意見をいただいた内容に基づき記載している。

(1) 個別最適な学びの推進について <学校教育課>

- ①事業概要
- ②主な取組内容
 - ・学力の現状と課題
 - ・AIドリルを活用した個別最適化学習

・多様な学びの場の充実（五條市通級指導教室について）

③今後の課題

【質疑・意見等】

（平岡市長）

A I ドリルは小学生から使っていると思うが、子どもたちは使えているか。

（西出学校教育課長）

使い始めて3年が経ち、多くの子どもたちは使えている。ゲーム性の機能があるため、特に小さい子どもは楽しく学習できている。中学生は課題を選択しながら学習することを求められる。小学校では使用時間が増え、隙間時間に使用することが当たり前のようにになっている。その子どもたちが中学生になったときにも、それが当たり前になってほしい。

（平岡市長）

苦手な子どもたちはいないか。

（西出学校教育課長）

現在の子どもたちは小さい頃からパソコンに慣れており、大丈夫である。小学校ではパソコンを使用しプレゼンを行っている。I C T能力は向上してきている。

（井上教育長）

小学校低学年1、2年生はどれくらいパソコンが使えるのか。3、4年生になればかなり使いこなせているとは思いますが。

（西出学校教育課長）

小学校1年の4、5月で使用方法を教えている。6月からA I ドリルをやっており

順応している。3年でローマ字を習うため、ローマ字入力を使用している。今の子どもたちは小さいころからスマホやパソコンなど、家でICTに触れている。

(井上教育長)

小学3年生が2年生時の復習をしたければ、そこに戻って学習できる。先の学習をやりたいと思えばできる。個別最適学習ができ、AIドリルは反復学習ができる。

(西出学校教育課長)

学年関係なく学習ができるため、極端ではあるが小学2年生が英単語を覚えることも可能であり、小学校高学年の子どもが中学校の勉強をしたいと思えばできるなど、学年関係なく学習できる。

(井田委員)

タブレットを使うのが苦手な子どもも当然いると思うがどうか。

(西出学校教育課長)

AIドリルだけではなく、紙に書いて定着する子どももいる。どこまでがデジタル、どこまでがアナログ的なものを大事にするかなど、デジタル一辺倒ではなく、しっかりと線引きを考えていく必要がある。パソコンが苦手な子どももいる。教員が横につきプリントで教えるなど臨機応変に対応している。

(寒川委員)

メリットは分かるが、デメリットは。我々が子どもの時代は文字をたくさん書いて覚えた。今は筆順など字が上手に書けない人が増えてきているように思う。さらに、対話的な学びも減ってきているように思う。筆順、対話などを学ぶことが今後の課題

ではないか。

(大西委員)

テレビ番組を見ていると、フリップに誤字が増えているように思う。また、資料についても誤字が多い。学校や社会に出たからのチェック体制が重要になってくるので配慮してほしい。

(井本委員)

「夏の家庭学習スタジアム」が全国初で、ニュースで取り上げられてうれしく思った。その反面、すららドリルのデメリットが取り上げられている。漢字の筆順、算数のひっ算のやり方などでつまずくと聞く。そこで、先生がきちんと分からないところを教えてくれる、また、すららドリル・AIドリルを活用し、両輪でやっていくというのが重要であると考えている。

(2) 中学校における休日の学校部活動の地域移行事業について 《生涯学習課》

①事業概要

②主な事業計画の内容

- 1 令和6年度の中学校部活動の状況について
- 2 令和6年度の進捗状況について
会議運営等、地域クラブ指導者の確保についての取組、学校との連携、
実証事業
- 3 令和7年度の取組
- 4 令和7年度の事業予算等
- 5 課題
- 6 国・県からの補助等

③今後の課題

【質疑・意見等】

(井本委員)

令和8年度からの実施である。国、県のガイドラインがまだ示されていない中で、進めるのは大変である。スポーツ振興という観点からも指導者を確保することが必要である。今後、人材バンク以外にも指導者を確保する手段はあるのか。

(安満教育部次長)

近隣の大学等に周知していきたいと考えている。

(井本委員)

資格は必要になるのか。

(安満教育部次長)

資格は必要ということではないが、スポーツの経験がないと厳しい。登録していただいても、全員が指導者として指導できるとは限らない。

(井上教育長)

五條市の子どもたちは体育、文化系両方の部活で一生懸命活動している。円滑に土日に活動する場所を作ってあげないといけない。人材バンクが決め手であるが、働き方改革の点から、国が言っているように教員の土日対応ができない。県でもまだ登録者が100名に満たっていない。市では15、16人である。現在、実証事業で土日に動いている学校が数校ある。今約16人だが、増やすことで令和7年度から更に3つ程度増やせると思う。少しずつ目途はついてきている。指導者確保のため、大学にも呼び掛けなどを行っている。良い案があれば、教えただければ幸いである。

(平岡市長)

確認であるが、平日の部活動は教員が行うということによいか。

(安満教育部次長)

国は、平日も地域移行を進める方向である。県は令和8年度について、土日のみ地域移行と示している。よって当面は土日のみと思われる。

(平岡市長)

土日に試合があればどうするのか。

(安満教育部次長)

中体連（奈良県中学校体育連盟）が検討しているところである。まだ定まっていない。

(平岡市長)

国の方針もあるが、今後は市としてどうするか考えてほしい。市内の子どもたちは、大変頑張ってくれており、全国大会出場などで表敬訪問に来てくれている。不安に思っているのは、指導者が変わると子どもたちが不安になると思うが、市としてどうしていくか考える必要がある。

(井田委員)

令和8年度から実施となっているが、子どもも保護者も不安であると思う。子どもたちが全国大会等を目指して頑張っている中で、市長も言っているが意欲をそがないように市として何か配慮できないか検討してほしい。また、事故等があった場合などの責任の所在や多くの問題が出てくる。実証事業をしている中で、良いところや課題などはどうか。

(安満教育部次長)

指導者等から聴取し、確認をしていく。

(井上教育長)

どの市町村も知恵を絞っているところである。土日に指導してくれる方が完全ボランティアは考えられない。現在は、教員が指導しているため手当が支給されているが、教員の手から離れるのが明確化された。令和8年度以降は教員に対する報酬はない。その財源を指導者に回してもらえれば、市の財源持ち出しが助かることになる。しかし、方向性がまだ出ていないので各市町村が二の足を踏んでいる状況である。頑張っている子どもたちのために、五條市全体としてサポートしていく体制を作り上げていけたらと思う。

(3) 五條新町重要伝統的建造物群保存地区の保存・活用事業について

《文化財課》

①事業の概要

②主な事業の内容

1 経緯・経過

2 主な事業内容

- ・保存と整備／建造物の修理・修景
- ・活用とまちづくり
- ・住民等の取組

3 事業推進上のポイント

- ・まちづくりとの整合の促進
- ・住民の主体的な参画の促進

③今後の課題

【質疑・意見等】

(井本委員)

若手の育成で、住民との話し合いを進めていると思う。かげろう座のような形で全国から多くの人に来てもらったときに課題が出てくると思う。今後、賑わいをもたせるのか、歴史を重要視するのか、または写真映えなど観光の視点を重視するのかなど、今後の方向性を教えてほしい。

(前坂文化財課長)

地域の方には様々な声がある。全国には129地区の重伝建地区があり、有名などころのように観光客を呼び込むため、無電柱化や駐車場整備などを進めていくことが良いという声もある一方で、静かな暮らしをしたいという声もある。五條市としてどうバランスをとっていくのが良いのか難しいところである。去年、文化庁の調査官が現地指導に来たとき、五條市が重伝建地区をどのようにしていきたいか方向性を示さないといけないと言っていた。本来の新町通りの姿である商売をする人が参入しやすいように整備することも一つの案ではないかと提言をもらった。今後は、様々なことを含めて方向性を考えていく必要がある。

(大西委員)

観光客を受け入れるということであれば、駐車場も必要である。お土産は何があるのか。しかし、お土産を売っている店がない。新たな店はあるが、五條市といえばこれというものがあればいいのではないか。ただ、静かに暮らしたいという意見の人と、どうバランスをとるのは難しい課題である。

(寒川委員)

かげろう座のように、にぎやかなイベントが復活してほしい。新町にはSNSによ

くあがっている人気の宿泊施設が2軒ある。また、空き家が40軒あるので、うまく活用し、観光、宿泊などの整備について、文化財課町並保存整備室は絡んでいるのか。

(前坂文化財課長)

空き家を修理したいという相談は、まちなみ伝承館の町並保存整備室で受けている。制度を紹介し、古建築に精通した建築士を紹介するなど、できるだけ安価で済むように案内している状況である。

(平岡市長)

市長に就任してから新町、重伝建地区をどうしていけばよいかを考えている。五條市の観光は「五條新町」と私の中では一番に出てくる。少し前に新町の方々からお話を聞いた。静かにしておいてほしいという意見など様々な意見がある。しかし、市として若い世代に引き継いでもらいたいし、町並みを守り残していきたい。まずは吉野川の整備をし、その次は新町であり、私は日ごろから五條市に来て新町を見てもらうまちづくりができないかなど考えている。担当課にもっと空き家を活用して、市が事業者を紹介をし、お店をやらしてもらえないかなど思っている。一過性のイベントではなく、皆さんからも意見を出してもらい、常に人が来てもらえるような環境を作っていきたい。中心市街地の活性化は何かといえば、人が来てくれることが活性化だと思っている。皆さんのお知恵をお借りして共に考えていきたい。

(4) 五條市における不登校の状況 ≪子どもサポートセンター≫

- ①長期欠席者とは・・・1年で30日以上登校しなかった児童
 - 1 長期欠席者の児童生徒数の推移
 - 2 不登校の児童生徒数の推移
 - 3 令和5年度全国・奈良県の不登校の児童生徒数学年別の割合
 - 4 令和4・5年度五條市の不登校の児童生徒数学年別の割合
 - 5 在籍児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合（小・中学校計）
 - 6 学年別の不登校児童生徒数の推移
- ②取り組んでいること
- ③今後の課題

【質疑・意見等】

（寒川委員）

不登校の復帰率のデータを出してほしい。また、いじめによる不登校データを取ってほしい。心のSOSを見逃さないように。学校への行き渋りがあることは、保護者、教員などが分かってくる。重要視して見てあげるのが必要。また、コロナ禍以降、外出が少なくなっていることが、スマホ、ゲームなどの利用率があがっている要因ではないか。今後の対応については非常に難しいが、早く心のSOSを見逃さないように細心の注意が必要である。

（井本委員）

日本だけでなく他の国でも、不登校が増え大問題になっている。仕事の関係で施設の管理者が集まる会議でグループ討議を行った中で、東京、名古屋、福岡の方と話し合った。ある施設では、施設の7割が不登校と聞いた。先生と施設職員が話し合っているが、復帰するのが見込めない。東京などでは茶飯事になっているのが現状であると言っていた。五條市でも減るような兆候が見受けられない。今後も不登校が増えてくるときに、どうサポートしていくか。カウンセラーなどの支援員の補強、子どもの選択肢を増やしていくサポートも大事だと思う。逃げ場がないと切迫感の中で生活することになる。その部分をどうサポートしてあげるか、子どものケアが重要である。

(大西委員)

P 3 5 の 6 番のデータは、どの時期のデータなのか。

(古澤子どもサポートセンター所長)

各学校から2か月に1回、月例報告を受けている。3月末時点のデータとなる。現
中学1年生のデータは、小学6年生の3月末時点のデータである。そこが増える傾向
があるので懸念されるところではあるが、現在高1年生のグラフでは中1から中2ま
では減少しているので、増加する一方ではないと感じている。

(5) 五條市教育大綱と第4期五條市教育振興基本計画の現状と第3期奈良県教育振
興大綱と奈良の学び推進プラン <<教育総務課>>

①市の状況・県の動向

「五條市教育大綱」と「第4期五條市教育振興基本計画」

「第3期奈良県教育振興大綱」と「奈良の学び推進プラン」

②今後の進め方

③今後の課題

【質疑・意見等】

(井田委員)

昨日、子育て支援の会議に出席したが、園児が少なくなる中で、5園が3園になる
のか、学校がどこへ統合するのかなど、今の若い人たちがその学校に行くためにど
こに住むのかという意見があった。若い人が五條市に住んでもらうことを考え、まち
づくりをしていかなければならない。昨日の会議で意見が出ていたが、アンケートを
とるなどして、今後の推移を調べると、何年後には小中学生がこれくらいの人数にな
ると分かったときに、何年後には統合して、その後どうなるのか。市も何年後にはこ

の数になるという推移を示さないといけない。保護者の方が五條市で安心して子育てができるように、子どもの数を保持していくかを基本計画の中に示さなければいけない。

4 井上教育長挨拶 要旨

未来を担う子どもたちのために、様々なご意見を賜り感謝する。平成27年から改正地方教育行政法が施行され、市長をトップに、様々な観点からご意見をいただく総合教育会議が設置されることとなった。私としても教育全般に関する市長の方針をしっかりと受け止めながら、五條市ビジョンあるいは五條市教育大綱を基盤とし、また、県の第3次教育振興大綱が間もなく出てくるので、その方向性も踏まえながら、新たな五條市の教育について、確固たるエビデンスをもとにしっかりと考えていく所存である。皆様方から更なるご意見を頂戴すると共に、引き続き五條市の教育にお力添えをお願いする。

(終了)